

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」という基本方針を鑑み、これまでの理念の上に、地域とのつながりを重視した理念を作った。	○	地域、利用者のニーズに応じて理念を作り変えて行く。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎年の事業計画書に理念を明記し、理念の振り返りと実践に努めている。また、職員採用時には理念に即した説明を行い、具体的な場面において理念が道しるべとなるようにしている。	○	理念が形骸化しないよう、毎日の関わりの中で常に理念が活かされるように取り組んでいきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族の訪問、また相談を受ける時には理念を根底に説明し、地域においては、なごやか寄り合い事業や運営推進会議等で説明している。	○	積極的に地域へ出向き、理念、役割を伝え「安全・安心町づくり」に協力していきたい。地域向けの広報誌にも取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に立ち寄ってもらえるまでには至っていないが、自宅で出来た野菜等を頂いたりしている。散歩では気軽に挨拶をする関係にある。	○	近所の人達が気軽に訪問できる雰囲気作り、関係作りを行う。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区で催されている行事には参加し、地域の人との交流に努めている。	○	地域の学校等で催される、運動会、文化祭等にも積極的に参加して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の実態について詳しく把握していない。実習生の受け入れは積極的に行っている。	○	運営推進会議や町内会長等関係者の意見を聞き、地域の必要性を考えて、事業所としての力を発揮できるようにしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価を実施するに当たり、職員で検討会を行い、意義、目的を理解する。職員会議、ユニット会議等においてガイドブックを参考に現状のままでよいのか、改善すべき課題はないか検討している。	○	ガイドブックの指針、着眼点を職員で共有のものにし、質の向上に努める。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	検討課題が残された場合、次回会議までに対応策と経過その結果を報告している。また、ケアプランの事例を発表を行うなど認知症ケアの実際をわかりやすく報告し、指導や助言をいただいている。	○	より多くの家族や関係者に参加を呼びかけ、幅広い意見を聞くことで質の向上を目指したい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在は運営推進会議メンバーの市職員との意見交換が主である。	○	市職員との関係作りを積極的に進めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度、地域福祉権利擁護事業の研修がある場合には参加している。家族には必要に応じてこういった制度があることをお知らせしているが、全体的な職員の理解度はまだ浅い。	○	必要な時に支援できるよう、研修には積極的に参加し内部研修も定期的に行って行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待防止には努めているが、高齢者虐待防止法に基づいた教育の取り組み方は不十分である。	○	全職員が高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を提供し、気づかない虐待がないか勉強会を設ける。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書、重要事項説明書を中心に十分な説明を行い、家族、利用者からの質問には資料を明示し説明している。入居に際しては家族、利用者が充分納得できるまでの期間を用意している。解約に至る場合は、法人施設との連携をはかり、不安がないようフォローしている。	○ 説明が一方向的にならないよう注意し、家族が知りたい情報は何か、言いにくかったり、質問しにくい雰囲気になっていないか、常に家族、利用者の立場に立って考えていく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度利用者自治会を開催し、ホームでの生活全般にわたって、幅広く意見を求めている。	○ 介護相談員の派遣を検討していく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	居室担当者が毎月近況報告書(日常生活、行事での様子、受診状況、健康状態)並びに、金銭出納簿の写し、ユニットたよりを送付している。	○ 細かいことでも、ご家族に対し相談、報告、連絡を欠かさないようにする。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での家族意見の尊重、意見箱の設置、訪問時には気軽に意見が言ってもらえるよう心がけている。	○ 苦情があまり無いからといって、安心することなく隠された不安不満がないか、常に職員は自己の言動や支援のあり方を振り返る。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ユニット会議、夜勤者会議等で意見や提案を聞く機会を設けている。また、意見が出しやすいよう提案書も用意している。	○ 職員の持つストレスや隠された意見がないか、アンケート調査を行う。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況変化に伴う勤務調整は、各ユニットが柔軟に調整し合い行っている。職員数に限りがあり利用者の状況にあわせ常に安定した配置にまでは至らない時がある。	○ 夜間職員配置の検討と増員を図る。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は協力抑えるようにしており、異動に際しては利用者や家族ににお知らせし、予測される混乱に対して予め配慮している。	○ 職員交代の前後には引継ぎを充分に行い、利用者、家族に不安が起きないように充分に配慮する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は職員の経験年数、能力にあわせ計画的に行っている。職員会議において研修報告をし研修報告書は回覧しつつでも閲覧できるようにしている。	○ 職場内研修の場として、ケアプランの事例発表会を毎月行っている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと職員交流や現場実習を行い、事業所の質の向上を図っている。	○ 今後も継続的に相互研修を深め、さらに他の事業所とも交流を深めたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は月に一度、管理者、主任との相談会を設けている。また、必要に応じて、全職員との話し合いの場を設けているが、全職員のストレスの把握までには至らない。	○ 日常的にストレスを緩和できるような人間関係の構築を行う。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は職場内での様子、状況変化を把握しており、都度アドバイスをおくっている。資格取得に向けた支援や協力体制もある。	○ 職員が向上心をもって前向きに気持ちよく働くことが出来るよう職場環境づくりを推し進める。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前の面談で多くの情報を得るようにしており、本人の気持ちを良く把握した上で、安心できるよう支援している。	○ 相談から利用までの間、いつでも安心して受け止める努力をしたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族と本人の思いにズレがないか十分に話を伺い、信頼関係を構築しながら、家族が安心できるよう努力している。	○ 家族の思いと本人の意志を区別し、ニーズの把握を行うようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員、計画作成担当者が利用者や家族が望んでおられる支援を見極めるように心掛けている。	○	地域包括支援センターとの連絡を密にする。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に家族、本人に見学していただき、地域の様子、事業所内の設備、雰囲気等十分に説明し体感してもらうようにしている。	○	お試し入所を積極的に勧める。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除、料理、食事、休息の時間を共有することで馴染みの関係作りをしている。	○	「共に過ごし、学び、支えあう」関係作りをさらに築いていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者の日々の様子等をお伝えしているが、細かい生活歴の把握など不十分な面もある。	○	情報の共有を深め、家族とともに本人の生活を支えていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前の家族と本人の関係に配慮しながら、外泊や外出を勧めたり、お互いの意見を聞くなどあせらずゆっくりと対応している。	○	事業所での生活の中に、家族も参加したり協働作業が出来る雰囲気作りを勧めていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所、行きつけの店で買い物等本人の希望を尊重してつながりが切れないようにしている。知人、友人の訪問に際しては、お茶を出すなどしてなごやかな雰囲気づくりを行っている。	○	間接系が途切れないよう継続的な支援を行う。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の相性に配慮し、テーブル、席の配置に気を配っている。関係性の悪化を防いだり、また深める為職員が間に立ち調整役となっている。	○	利用者同士の関係作りで、どうしたらよいか、常に職員間で話し合っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	夫婦で利用されていたが、御主人が法人施設に入院された時、いつでも面会にいけるよう支援したりするなど、継続的な関わり、つながりを切らないようにしている。	○	契約終了後も必要があればいつでも支援できる体制作りを進める。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意志が伝えられる方には希望や要望を受容し、伝えられない方には本人の思いを汲み取る努力をしている。	○	自分らしく生活できるように支援する。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入浴時や一緒にお茶を飲む時等、毎日の何気ない関わりの中で、本人の思いを把握するようにしている。また、ご家族や知人からも情報収集している。	○	本人の視点に立ち話し合っていく取り組みを強化する。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	できること、やってみたいこと等をゆっくりと聞き、ありのままの状態像の把握に努めている。	○	一人ひとりの有する力を発揮してもらえるように努める。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は職員の話し合いにより作成。本人、家族の意向の確認は介護計画作成のために特別に行うのではなく、日々の関わりから把握するように努めている。	○	本人の意向を重視、実践可能な介護計画の作成を行う。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行い、以前に生じた変化には随時ケアカンファレンスを持ち対応を考えるようにしている。	○	本人ニーズと提供サービスにズレがないかモニタリングを強化する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイル、個別ケア記録の用意はあるが、毎日の気づきや工夫についての記入において、やや不十分である。	○	気づきや工夫を記入し、情報を共有する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や買物の送迎等、状況に応じて支援している。	○	さらに、柔軟に外出等の支援ができる体制作り。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員からは運営推進会議をとおして、意見を求めているが、多様な地域資源との協働までにはいたらない。	○	地域での催しに積極的に参加し、待ちのコミュニケーションではなく、自らグループホームを知ってもらおう努力をする。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険以外の生活支援のサービスに関して情報不足である。	○	市町村独自のサービスに関しての情報を集め、本人の意向があれば利用していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員も運営推進会議に加わり意見交換している。権利擁護や生活保護等に関し関係機関からの情報提供やご意見を頂いている。	○	地域包括支援センターとの連絡を密にする。関係を強化し連携を図る。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医療機関からの往診、処方を受け、専門的治療が必要な場合や本人、家族が入所前のかかりつけ医への受診を希望される場合は継続して受診及び通院の援助を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	看護師の常勤体制を図る。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	あらゆる場合を想定した準備、検討を怠らないようにする。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	終末期ケアについての勉強会を行う。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	外部に個人情報を漏らすことのないよう漏洩防止に努めている。利用者の自尊心、プライバシーを損ねることのないよう、常に尊厳のある関わりを心がけている。	○ 今以上に職員の意識の向上をはかり、自然体で利用者に対して尊厳を持った関わりあい方が出来るようにする。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中での自己決定、行事への参加、食事のメニュー等様々な場面で利用者が自分で決め行動できるよう支援している。	○ 本人が決める力を大切にし、意図的に引き出す取り組みを深めていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別の支援を行うようにしている。日常業務については流れのポイントが決めてあるが、時間を区切っていない。利用者のニーズにいつでも応じられるよう配慮している。	○ 毎日出かけられる環境を提供できるようにする。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の意志で着替えが決められない時は、見守りながら支援してる。美容院での理美容は本人の希望や要望を押し量りながら支援している。	○ 本人が心地よく思うおしゃれや髪形など、意向を尊重していく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は朝食を除き、法人の給食を利用しているが、月に数回は献立、買物、調理等利用者と相談しながら行っている。	○ 今後、献立、調理等利用者中心となるように事業所内での調理を増やしていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ユニット内に喫煙者はいない、またお酒を飲む利用者はいないが、お祝い事等随時提供している。好みのおやつ、飲み物などにも配慮している。	○ たこ焼き、焼き芋等、利用者と共におやつ作りにも取り組んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別に関わり合いを持ち、プライバシーを守りながら、出来るだけ自分の意思で排泄が出来るように支援している。	○	排泄パターンをさらに把握し、パットの利用も減らしていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望を尊重しながら夜間入浴も行っている。	○	夜間入浴の取り組みを今後も継続していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の生活パターンやリズムを考慮しながら、落ち着いて休息できるよう支援している。	○	日中の活動を促す工夫をしていく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出支援(買物、散歩、ドライブ、個別の誕生日祝い)料理作り、掃除、裁縫、四季の行事等で提供している。	○	職員側主導の楽しみ、役割の演出になっていないか常に振り返る。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が現金を管理し必要に応じて支払う方もいる。また、職員が管理する場合でも買物等において、自分で支払い、お釣りを財布に入れるよう支援している。	○	家族と相談しながら本人の金銭管理の支援に取り組む。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の希望に沿った外出援助には限界があるが、出来るだけ要望には答えるようにしている。	○	一人ひとりが外出を楽しめる支援をしていく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	温泉、故郷訪問など利用者の希望に沿って、職員数の調整をしながら行っている。	○	希望があった場合、早い時期に実現できるような体制作りを行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙には職員が援助して返事を出している。電話、携帯電話も自由に使用できる。	○	将来的にテレビ電話を取り入れて行きたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者用のスペースに限りがあるが、いつでも気軽に訪問していただけるよう心がけ、訪問があった場合はお茶やコーヒーを出すなどして、和やかな雰囲気をつくらせている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒、転落の危険性がある利用者に対しては見守りの強化、滑り止め、ベッドの向きを変えるなどして、拘束しない工夫をしている。	○	定期的に身体拘束に関する勉強会を行う。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全性重視の視点から設計施工の段階で、暗証番号による自動ドアの設置がなされた。運営者は今日の社会状況からみて、事業所が不審者の進入防止策を講ずるのは当然の責務と考え、また、家族からも施錠してある方が安心との声もある。ガイドブックでの指針、着眼点の主旨は良く理解している。	○	職員はガイドブックにある指針、着眼点について理解した上で、利用者が外に出たい要求を感じた時には散歩するなどして、不安や閉塞感を与えないようにする。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在は常に把握している。居室内にひとり居られる時はさりげなく見守りしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態を考慮しながら、保管管理を行っている。	○	利用者の状況を常に考えながら管理が過剰にならないように、定期的に確認する。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎月、防災・避難訓練を行っている。転倒等事故予防対策として、アクシデント、インシデントレポートに記入し、其れに基づいた対応策を協議している。	○	利用者も参加する防災訓練の実施。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	各種マニュアルを作成し、全職員が応急手当の訓練を受けている。	○	定期的な訓練を行う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議において地域住民の協力、理解を求めている。防災・避難訓練は毎月行っている。また、年1回地震を想定した総合訓練も行っている。	○	消防署の教育訓練の実施
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	訪問時や毎月の近況報告書でリスクについて説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、状況によっては看護師、医師に相談できる態勢にある。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬剤情報を綴り、服薬は一人ひとり手渡しし、確認している。	○	効能や副作用等しっかり把握する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然排便を促すため散歩したり、水分を多めに摂るなど、その人にあった工夫をしている。	○	便秘傾向にある人への継続的な働きかけをしていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの働きかけを行い、できない場合は職員が援助している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みを把握し、食事摂取量、水分量ともに職員はチェックしている。不足と感じた場合は、本人が好むものを提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ摂取は職員、利用者共におこなっている。ペーパータオルの使用、普段の消毒等予防対策を行っている。	○	早期発見、早期対応を心がけ、情報収集、職員教育を徹底する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	看護師、管理栄養士の指示により台所、調理用具等の衛生管理を行い、冷蔵庫の食材は定期的に確認している。	○	決められたルールの遵守
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	プランター、観葉植物、植木鉢等を置き、季節の花で明るい雰囲気になるよう心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内は和モダンをコンセプトに落ち着いた雰囲気であると思う。照明器具も認知症を考慮して穏やかな光線になっている。ソファ、利用者に適した小机、馴染みの小道具など居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	利用者が主体となって暮らしの場を整えていく支援を行う。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室の用意はあるが利用される方がいないのが現状である。ソファの位置や小机等を利用しくつろげる配慮をしている。	○	使用しやすい和室の改造

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた筆筒や鏡台、馴染みの物等自由に持ち込んでいただき、居心地の良い居室となるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室温調整は利用者の希望、状態にあわせ細やかに行っている。随所に消臭剤、芳香剤を使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、滑り止め等、一人ひとりの状況にあわせ配慮をしている。	○	利用者の自立と安全が両立するよう常に改善に取り組む。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の状態を把握し、必要な表札、目印を置いている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りには、ベンチや机を置き外の様子を楽しんだり、畑を作り植え付けや収穫を楽しんでいる。また、犬と戯れるスペースを作っている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・夜間入浴等利用者の希望や要望を中心にサービス提供を心がけている。このサービス提供が適切であったかどうか、毎月交代制でケアプランの事例検討発表会を行い、全